

2013年度 拠点形成型R-GIRO研究プログラム 採択プロジェクト一覧

研究領域	研究テーマ	拠点リーダー	所属	概要
環境領域	アジア太平洋地域における水・資源再生循環システム研究拠点	中島 淳	理工学部 教授	気候変動によって深刻化する水問題を緩和し、持続可能な水利用を実現するためには、利用した水を再生・再利用し、新しい水循環系を創出することが肝要である。 本研究拠点では、「水再生スマートグリッド」として、適正な水再生技術のイノベーションと新しい水循環システムのイノベーション、そしてそれらの実装による地域水管理政策を研究・検討する。その中には建築や設備、景観のデザイン、水処理で発生する汚泥や他の廃棄物の再生循環、そしてこれらシステムの実行を可能にする地域マネージメント政策も含まれる。これらの統合した技術・マネージメントのパッケージセットは、我が国の将来型水インフラ産業の育成、統合的水ビジネスの発展に貢献することができる。
先端医療研究拠点	持続可能で健康な社会を実現する運動空間創成科学の研究拠点創成	伊坂 忠夫	スポーツ 健康科学部 教授	政府の掲げる2030年のあるべき姿、社会像の一つに「少子高齢化先進国としての持続性確保」が挙げられる。本研究拠点では、「運動空間」(「運動を行う(える)空間」、「運動したくなる空間」、「異なる運動が共存できる空間」、「運動を観る空間」、「運動活動による活性化した空間」を統合した概念)を具現化するために、新しい学際研究領域「運動空間創成科学」を創設し、日本の持続性ある健康な社会の実現に貢献する。具体的には、「そこにいだけで動きたくなる空間」のモデル構築とその構築に必要な実装メカニズムの解明や技術開発を行うことで、健康づくりのみならず、運動を通じた老若男女の交流の場(コミュニティ)の形成、さらに安全・安心のまちづくりと地域の活性化を実現する。
日本研究・地域研究領域	自然と人間が共存可能な新たな文明の創造に向けた「環太平洋文明学」の構築拠点	高橋 学	文学部 教授	本研究拠点では、環境と文明のあり方を根本から問い直し、世界標準時に認定された水月湖における年縞研究を基軸に、環太平洋地域の災害と文明の興亡の相関を解明することで、自然と人間が共存可能な新たな文明論を構築する。すなわち、本来、人類学、考古学、地理学は協働し人間の文化と社会の多様性の認識を通して未来を展望する使命を共有していたことから、その再統合の第一歩として、「環太平洋文明学」を構築する。そこではとりわけ、環境考古学および地理学から文化人類学へ「物質循環」の概念を導入し、大量生産・大量消費の市場原理主義に代わる新たな文明の価値観を探究・創造し、持続可能な社会であるための方策を見出し、新たな文明の時代を切り開くためのビジョンを提示することを目的とする。
平和・ガバナンス領域	平和協力推進を支える研究拠点	本名 純	国際関係学部 教授	本研究拠点の目標は、日本社会が主体的役割を果たす国際平和協力政策、及びその基礎となる相互理解の推進を学術的にバックアップする日本初の研究拠点を構築すること、そして、そのために必要な新たな研究パラダイム(新学術領域)を創成することである。すなわち、地域研究・理論研究・政策研究に加えて、社会成熟研究という異なる4分野を融合して、紛争解決や国際平和協力政策に関する統合的な知の集積・創造・発信を進め、研究期間終了時には、日本による主体的な国際平和協力政策を支える学術的研究拠点、(仮称)立命館平和研究センターを発足させる。同拠点は、政府機関、国際機関、市民団体、教育機関に対して、日本発の国際平和協力政策を提言するシンクタンク的な役割をも備えたユニークな学術研究センターとなろう。